

「触れられる国立天文台へ」

天文ファンや天文学関係者はもちろん、一般の方々に、国立天文台をもっと身近に感じていただきたいと願っています。そのために、三鷹地区では一般見学者のための見学コースや展示室などを設けています。また、天体観望会もおこなっています。

「よく知られた国立天文台へ」

国立天文台をよく知っていただくために、国立天文台での研究成果・天文学上の発見などを、マスコミなどへ積極的に公開しています。たとえば、記者会見を開催したり、一般向けの定期的な天文情報を各種のメディアで提供しています。

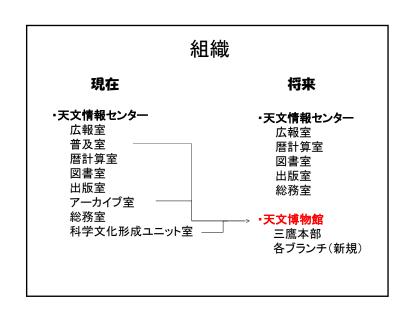
「より親切な国立天文台へ」

一般の問い合わせ、取材・見学・資料提供などの申込に、 迅速・積極的に対応するよう努力しています。また、公共 天文台や学校など社会教育普及に携わる諸施設などに 役立つ情報を提供し、より親切な対応を目指しています。

基本方針

私たちは、情報の公開と成果の公表などを積極的に行っていきたいと考えています。それは国民の皆様への還元という意味合いもありますが、天文学のおもしろさ、最新の研究成果に加え、日常生活にかかわるこよみなどを多くの人に知っていただきたいからです。そして、一般の方々にも、私たちの研究や業務、活動を理解していただきたいと考えています。

また、国立天文台の活動を一般の方に向けてお知らせするだけでなく、社会からの反応を受け止め、 それを研究活動へと生かしたいと思います。





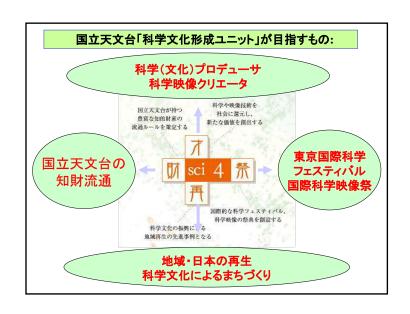


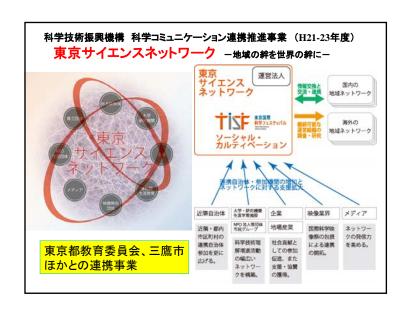


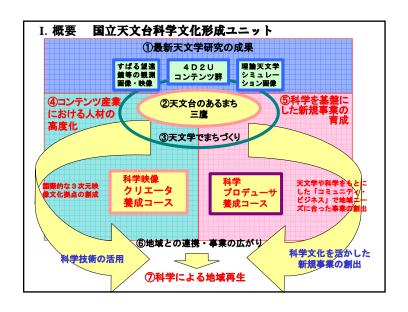
科学技術振興推進費 地域再生人材創出拠点の形成

宇宙映像利用による科学文化形成ユニット

機関名:自然科学研究機構 国立天文台 代表者名:観山 正見 連携自治体:三鷹市 実施期間:平成19年度~平成23年度







ユニット活動の成果・波及効果

- 1. 「科学映像クリエータ」を35名養成
- 2. 「科学プロデューサ」を73名養成
- 3. 「合同会社 科学成果普及機構(NAO)」設立
- 4. 「東京国際科学フェスティバル」
- 5. 「国際科学映像祭」
- 6. 「みたか科学文化の会」立ち上げ
- 7. サイエンス・カフェ「星と風のサロン」
- 8. 一般社団法人 「日本サイエンスコミュニケーション協会 (JASC)」の設立 ほか

人材創出事業の実績 (5年目)

多数の応募者があり高倍率の中、優秀な受講生を養成し、 目標を満たした養成人数を修了させている。

	実 績	予定	計(実績+予定)	5年目目標
科学映像クリエータ	26人	10人	35人 🚤	36人
科学プロデューサ	64人	9人	73人 🚤	72人
合 計	90人	16人	108人 🚤	108人

国立天文台契約職員雇用者(2012年3月現在)

和田 智秀 (cfca,専門研究職員)

佐久間直小子(ALMA推進室,専門研究職員)

橋本 淳 (系外惑星探査,研究員) 樋口 あや (ALMA推進室,研究員)

並河 正人 (科学文化形成ユニット研究支援員) 大川 拓也 (科学文化形成ユニット研究支援員)

「東京国際科学フェスティバル」も、同じく、世界天文年2009、ダーウィン生展200年、「種の起源」刊行150年にあたる平成21年度に開始した。この科学フェスティバルは、成人から子どもまで全ての人々が科学を楽しむ文化を地域に広げ、「科学好きの市民」のコミュニティの形成を目的としている。この活動を通じて、「科学文化の街」としての観光資源が創出され、市民と企業、大学・研究機関、学校教育機関の債务者担互にコミュニケーションが高まり、地域の文化、産業、生活の活性化に繋げていくことを期待しており、同フェスティバルの中心的な関催地域である東京都三廣市を中心に、正に科学による街おこしを図っている好例と含えよう。

3

【コラム®】 国立天文台のある街、三鷹 一科学による街おこしを!

三鷹市には、アニペーションを中心としたコンテンツ産業の自然科学研究機構国立天文台等の研究・教育機関が数多く立地しており、もともと中民に「科学文化や科学技術を育む素地」があった。同市ではこの利点を活かし、国立天文台と協議して取り組む「科学技術・科学技術・科学な化を活かしたまちづくり・ひとづくりプロジェクト」を地域再生計画として策定し、付加価値の高い映像コンテン外発信地域の割成、科学をテーマにした地域イベントによる地域の活性化、さらには科学文化の潜及と相違に排りる人材の農水等による地域の活性化を図っている。例えば、三鷹市は国立天文台の協力の下、平成21年度に「三鷹市屋と森と絵本の家」を設立した。これは、国立天文台の広い敬地を挽続する後、子を設立した。これは、国立天文台の広い敬地を施設な使って、結本を楽しび途中自然が有学へ触れる機会を提供するなど、子ともたちの調から戦争の強いる場合を提供するなど、子ともたちの知り等心や感受性を育み、子ともたちの対策がいた成長する地域文化の動造に奉与することを目指している。



(平成23年度科学技術白書より)

「星と森と絵本の家」で、国立天文台長の星 の話に聞き入る子どもたち 写真提供:国立天文台

日初している。 この「科学による街おこし」の中核を担う国立天文台は、「東京国際科学フェスティバル」の共催者として その運動に深く携わるとともに、NPO法人三歳ネットワーク大学に高齢して、平成パギ科状より定期的に「ア ストロノミ・バブ」を開催し、お酒を片手に巾民との料学に関する会話を楽しんでいる。表に、三歳ネット ワーク大学の市民均け護座「屋のソムリエみたか・軍空車案内人費成潰座」(平成19年度開算)に協力するな 後、地域コミュニティと一体となって「科学技術を活かしたまちづく・ひとづくり」に取り組んでいる。

